

議会の
追跡調査

認知症に関する事業は進んでいるのでしょうか。過去に議員が行った一般質問が、その後、市政にどう生かされたのかを市の担当部署に確認しました。

令和6年6月
一般質問

認知症予防の軽度・中度難聴者への対策は

問 加齢による耳の機能低下で軽度・中度の難聴となり、そのため認知機能が低下し認知症が進行することが知られている。高齢者が安心して社会参加ができるまちをめざす上で、加齢性難聴を予防することは重要。全国で270市町村が独自の補聴器購入費助成制度に取り組んでいる。本市でも取り組んでは。

答 高齢者の難聴と認知機能の低下との関係性は、現在も継続して研究が行われていると承知している。市は加齢性難聴の実態調査などを実施していないが、福岡県市長会が国や県に対して補聴器購入への財政支援を提言している。介護予防の観点からも、加齢性難聴の進行を抑えることが、認知症予防の効果があるならば、全国一律での公的補助制度などが行われるべきではないかと考える。市としては国・県の動向を見守りたい。

あれからすすんだのか？

地域の団体に巡回型の健診を行い、要介護リスクのある人や耳の聞こえに不安がある人を受診勧奨や包括支援センター等につながる事業を展開。現在、補聴器購入等の直接的な助成はないが、地域で潜在的リスクがある人を早期発見できる取り組みを実施。また、介護予防講座事業や地域リハビリテーション活動支援事業を行い、難聴を含む介護予防の普及啓発に努めている。

地域で支える安心を

認知症の母の耳が遠くなりテレビも大音量に。一人一人の置かれた環境が違うので、地域と行政が一体となった認知症施策をお願いしたいです。

市内在住
黒田 智治さん



令和6年9月
一般質問

認知症に寄り添った地域共生社会の構築は

あれからすすんだのか？

認知症の人も地域で共に暮らすまちづくりをめざして、新しい認知症観の普及啓発を実施。昨年度、市内で行った認知症サポーター養成講座では、認知症当事者やその家族の話を取り入れ、認知症をわがこととして身近に感じられるように講座内容を変更。また、今後は市内の認知症当事者の話を掲載した福津市オリジナルテキストの作成を検討中。今後も新しい認知症観を持った認知症サポーターを養成し、認知症当事者が地域で自分らしく、安心して日常生活ができるようにしていきたい。

お気軽に相談ください

今年度、新規採用で配属されました。市民の皆様のお役に立てよう一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。

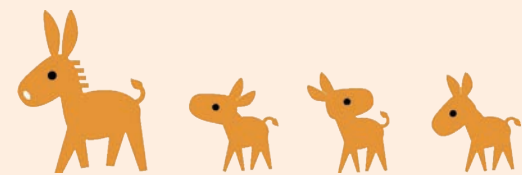
高齢者サービス課
松尾 直樹さん



認知症と共に生きる

このイラストは「認知症サポーターキャラバン」のロバ隊長率いる一団です。

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを、ロバのように、急がず、着実に一步一步進めていくという意味があります。



まずは知ることから

ご本人のことをよく知って、安心してもらえるような信頼関係づくりを大事にしています。入所者の方は、職員の名前を覚えられないので、先生と呼んでいます。声や姿でどの職員か、わかるようです。



グループホーム福岡
看護職
三浦 千秋さん

毎日、しあわせ！

皆さんが優しいので、毎日楽しく、幸せです。

グループホーム福岡
入所者
三坂 フミノさん



本人も家族も笑顔に

この職業に就き21年になりますが、日々、入所者の方から多くのことを学ばせていただいています。ご家族からは笑顔が増えたと喜びの声をいただいています。

グループホーム福岡
ホーム長
山下 美恵子さん

身近な問題？ 実は、日本では443万人が認知症を抱え、誰もが当事者やたちにできることを探ります。

ひとりでは介護できない

家族が認知症で、ひとりで付きっきりの介護は大変でした。でも、様々な介護サービスを受けて感動。今は介護資格を取り訪問介護で働いています。

市内在住
魚住 清美さん



自分が自分でなくなる恐れが

当事者や介護側になったら本来の関係性が変わってしまう不安があります。介護側になったら「できないこと」より、「できること」を大切にしたいです。

市内在住
中村 拓実さん



Q

認知症のイメージや体験談があれば教えてください。

地域包括支援センターの取り組み

市の包括支援センターでは、認知症の方やその家族を支えるため、さまざまな取り組みを行っています。具体的には、認知症カフェを定期的に開催し、地域の人に認知症のことを正しく知ってもらう機会や気軽に相談できる場を設けています。また、認知症当事者家族の交流会を開催し、1人で悩みを抱え込まないための交流の場を提供しています。

ご相談、お待ちしております!



※林さんと工藤さんは市の認知症初期集中支援チームの一員です。

今後の取り組み

今後は、「安心して認知症になれるまち ふくつ」のコンセプトのもと、認知症になっても今までどおり尊厳を持ち、地域での生活が続けることができるよう啓発活動を行います。市民のみなさんや認知症の当事者、そのご家族と話す場、考える場を設けたり、認知症に対する正しい知識の習得や理解を促進したりして、環境づくりに取り組んでいきます。

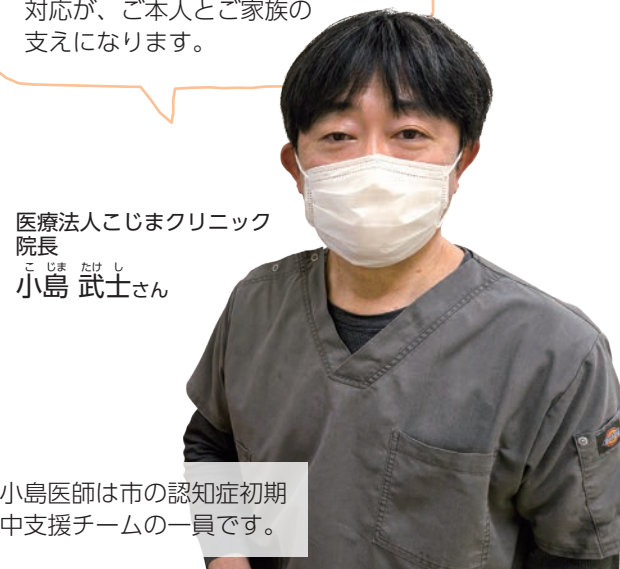
私たちの思い

認知症になっても、安心してその人らしく暮らし続けられるまちへ。地域の誰もが支え合い、つながりの中で生きることができるよう、私たちはこれからも寄り添いながら取り組みを続けていきます。

認知症サポート医から一言

まず相談、それが一歩

認知症の受診はハードルが高いですが、まずは地域のかかりつけ医か、地域包括支援センターへご相談ください。早期発見と早めの対応が、ご本人とご家族の支えになります。



※小島医師は市の認知症初期
集中支援チームの一員です。

認知症サポーター養成講座に
参加したよ!!

【わかったこと】

- うしろから声をかけない
- 目を見て話す
- ゆっくり話を聞く

劇をしました。認知症の人と、声を掛ける人の役を演じて、皆で話し合いました。

うちのおばあちゃんはまだ認知症じゃないけど、認知症の人に会ったら優しくしたいです。

- 優しく ゆっくり 話す
- 怒らない



津屋崎Jr.イーグルス

り組みと今後の展開は。

答 令和3年度から高齢者の健康課題に対して、保健事業と介護予防の一体的実施事業として対応している。具体的には、個別の保健指導と、高齢者の集いの場を活用した健康づくりの普及啓発などの保健事業を実施している。現在行っている宮司郷づくりエリアからさらに拡大し、今後は市内全域で健康寿命延伸の取り組みを実施していきたい。

あれからすすんだのか？

ポピュレーションアプロ―チ^{※1}は、令和3年度の1力所から、昨年度は市内全域の51

地域の力で健康を実感

出かけて、話して、動くことが大事。「さんしゃい体操」や地域との交流が認知症予防に効果的。楽しく続けることで健康寿命を延ばしています。

市内在住
木元 喜代美さん

力所まで拡大。特に適塩を基本に、バランス食や口腔に関する講話を実施。今年度もさらに実施箇所を拡大すべく郷づくりなど各地域への事業説明を充実させている。

ハイリスケアプローチ^{※2}の対象は年々拡大しており、より多くの人に効果的な保健指導を実施していきたい。

そのほか、後期高齢者人口の増加に伴い、市内集団健診1回あたりの受け入れ人数を増やすなどの対応をしている。

※１ 集団全体に実施する予防と啓発の取り組み

※２ 健康状態が悪化しそうな人に対するスクを低下させる取り組み

「新しい認知症観」を考える

今回、認知症を特集のテーマとしたのは、認知症基本法の施行を受け、「認知症になっても安心して暮らせるまち」の実現に向けた市の取り組みを、市民とともに見つめ直すためでした。市では、サポーター養成講座や認知症カフェ、地域の見守り活動などが進められてきました。議会では、これまで一般質問などを通じて支援体制の強化を求めてきました。今回は、議会の働きかけがその後どうなったのか、進捗状況を追跡調査しました。

また、制度や仕組みだけでなく、実際に地域で支

える市民や現場の職員、認知症当事者の声を聞くことができました。それぞれの立場から語られた思いや経験は、認知症を「誰かのこと」から「自分たちのこと」へと、捉え直す大切なヒントを与えてくれました。

こうした皆さんの声を反映し、認知症になっても安心して暮らし続けることができる地域社会を実現することが望めます。

あなたにとって、「認知症になっても安心して暮らせるまち」とは、どんなまちでしょうか。